

紀要への投稿について

当センターでは、中国帰国者問題、帰国者を対象とする教育に関わる、研究論文、調査報告、実践報告などを募集しております。内容が、帰国者に関わるものであれば、分野は問いません。日本語教育はもちろん、広く学校教育、心理学、社会学等さまざまな分野からの投稿を歓迎いたします。応募したいとお考えの方は、以下のところにご連絡ください。

尚、採否は当センター紀要編集委員会で審査の上決定させていただきますので、ご了承ください。

《 投 稿 規 定 ・ 方 法 等 》

内容は未発表のものに限ります。

原稿の枚数は、横書き36字×30行の形式で、10～40枚程度（図表を含む）

紀要第6号の締め切り：2000年2月末日までに原稿（コピー可）をお送りください。

宛先：〒359-0042 埼玉県所沢市並木6-4-2

中国帰国者定着促進センター

教務課 紀要編集委員会

: 042 (993) 1660 （担当：佐藤 恵美子）

応募者は氏名、所属機関、職名または専攻、住所および連絡先を
もれなくお知らせください。

審査の結果は、できるだけ速やかに連絡したいと思っております。採用が決まりましたら、
原稿は次の形式で改めてこちらまでお送りください。

一太郎Ver.5～9、Word または、MS-DOSテキスト形式
（他のソフトをお使いの方は、こちらまでご相談ください。）

編 集 後 記

1998年度も所沢センターには大きな変化がありました。樺太（サハリン）からの帰国者の受け入れが始まったのです。これまでいわば日本・中国という二文化間の交流や学習の場であったセンターに、サハリン - ロシア文化圏 - が加わることで、センターも一気に“多文化社会”に入ったなアというような感慨がわきました。これは我々の予想もしていなかったことでした。受け入れの決定が教務課に伝えられ、我々がまず始めたことは、サハリン帰国者のためのクラス、あるいはサハリン帰国者と中国帰国者からなるクラスを想定してのカリキュラムの検討、そしてロシア語（非漢字圏！）対応の教材の準備でした（つくづく漢字というのは便利なものだったのですね）。こうした準備の他に、新たにサハリン帰国者と接することになる我々自身のための勉強会も企画されました（サハリン帰国者の歴史的背景、サハリン事情、中国帰国者とサハリン帰国者とが気持ちよく学習や生活をしていけるよう我々が配慮すべきことがらについて等々）。平常の授業と並行しての、受け入れ準備期間は二ヶ月。そして10月、初めてのサハリン帰国者の入所。新しい期が始まってからも自転車操業は続き、現在も、まだこれが続いています。

これに加えて、1998年度は、文化庁からの委嘱事業である「通信による日本語学習支援の試み」の最終年度、つまり調査研究のまとめと報告書作成の年でもありました。本号は、この「通信」関係の報告が中心となっています。外部からは、「通信」に関わるものも含め4篇いただくことができました。ありがとうございました。次号では、新たにサハリン帰国者を迎えてのセンターの取り組みなどについても報告できればと考えています。

紀要編集委員一同

中国帰国者定着促進センター

紀要 第7号

発行 : 1999年 5月28日

編集者 : 中国帰国者定着促進センター

教務課 紀要編集委員会

042(993)1660

ホームページアドレス <http://www.kikokusha-center.or.jp>

発行者 : 財団法人 中国残留孤児援護基金

〒 105-0001 東京都港区虎ノ門 1-5-8

オフィス虎ノ門1ビル

03(3501)1050